

プレスリリース

2016年9月11日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループが、金融危機後の規制改革の最終化に向けた作業の進展について公表

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下「GHOS」）は、本日（9月11日）、リスク・アセットの計測における過度なばらつきを解消するための金融危機後の規制改革の最終化に向けた作業が進展していると公表した。

GHOSは、バーゼル銀行監督委員会（バーゼル委）が進めている改革の大きな方向性を了承した。GHOSは、バーゼル委が現在行っている規制改革の累積的な影響度調査について議論し、この調査の結果を踏まえ、バーゼル委として、資本賦課の全体水準が大きく引き上がらないよう注力すべきであることを再確認した。

GHOS議長であるマリオ・ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁の談話は次のとおり。「バーゼル委が金融危機後の規制改革を最終化することによってバーゼルⅢは完了し、銀行のリスク・アセットに基づく自己資本比率に対する信認回復に寄与する。」

バーゼル委議長であるステファン・イングベス・スウェーデン中銀総裁の談話は次のとおり。「本年末までの金融危機後の規制改革の最終化に向け、バーゼル委は、この数ヶ月間にわたって非常に重要な進展を遂げた。」